

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に「ふつうに暮らせる幸せ」の理念に基づき、毎日の申し送りや会議で検討・話し合いの場を持ち、実践に結びつけている。	事業所独自の理念を掲げ、理念の実践ができるよう、職員会議で確認し、ご利用者のケアプランの検討に活かせるようにしています。	定期的に理念を確認する機会を設け、職員に理念の浸透ができるよう検討されることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣中学からの職場体験の受け入れや、ボランティアによる交流は図っているが、地域とのつながりはあいさつ程度で終わっている。	フラダンスのボランティアに来ていただいたり、中学生の体験学習を受け入れたり、地域の防災訓練にも参加するなど、地域との交流が心がけられています。	小学校や保育園とも交流の機会を持つよう、検討される事を期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症についてを取り上げた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、家族や町内会長、民生委員の方々と話し合い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、ご家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	町内会長にも運営推進会議に参加して頂けるよう、対応を検討される事を期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関する疑問などは、担当者と電話で相談している。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイス頂いているほか、困難事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が自由に気持ち良く生活できる環境作りに努めている。夜以外は玄関の施錠もしていない。	事業所にて身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、言葉の遣い方についても職員会議で指導を検討するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的を含めて、会議や日常会話の中で注意を促し、日々のケアに努めている。	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に色々な研修を通し学んではいるが、関係者との話し合いや活用には至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用の際に、管理者が契約書の内容を読みながら説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で運営についての意見や要望を聞く機会を設けている。面会時には家族と気軽に話し合える関係が持っている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、定期的にご家族にアンケートを送り、意見・要望の確認を行っています。	ご家族が集まる機会を検討し、交流の機会として開催される事を期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の全体会議やユニット会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の評価により、個々の向上心を養える様になっているが、全ての職員には至っていない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体会議で内部研修を必ず行っている。必要に応じて外部研修にもなるべく参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会はほとんどない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問の際ご本人と面会の場を持ち、信頼関係を築いている。入居時には家族から情報を得ると共に、ご本人の声も多く聞く様努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や申し込みの際に意見や要望を聞き取り、話し合いの場を十分に設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問で本人の状態や家族の状況を確認し、担当ケアマネ等より情報を集め、判定会議で判定している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者と同じ目線での関わりに関心を持っており、毎日の家事では互いに助け合いながら共同作業している。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんな小さな事でも常に家族に報告し、話し合いの場を設けている。通院の付き添いや、外出・外泊等で家族とのつながりも持っている。	事業所広報を月に1度送付しているほか、ご利用者の生活の様子や身体状態の様子をまとめお送りしています。日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会には気軽に来て頂ける様働き掛けている。本人の希望がある時は、帰宅等の機会を家族と相談しお願いしている。	ご家族の支援のもと、買い物や外食、馴染みの美容室へ出かけたり、お盆に自宅に帰られたりと今までの関係継続支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内に皆で和める場としてソファを設けており、毎日顔を合わせ、関わり場となっている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であれば相談や支援が出来る様な体制がとれている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中での言動や様子から思いや希望を把握し、ケース記録や会議を通して職員間で共有している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時に、利用していた施設の方より話を聞いたり、家族からも話を聞き、知り得た情報は職員間で共有している。	契約時にご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。	定期的にあセスメントシートを更新する機会を設け、職員間でも情報の共有ができるよう検討される事を期待します。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日誌やケース記録には必ず目を通し、現状把握に努めている。また詳細な記録に心掛けている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行っている。何か問題発生時は、月1回行っているユニット会議で話し合い、その都度介護計画の見直しを行っている。	モニタリングは職員にも行ってもらう、3ヵ月～4ヶ月毎の短期目標を決定しています。	プランの作成にも職員に関わってもらえるよう検討される事を期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の出来事や体調の変化、気付いた点等は詳細にケースに記録している。毎日の申し送りでも共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	あらたに生まれたニーズに関しては、検討し、柔軟な支援が出来る努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や踊り等のボランティアに来て頂き、利用者との交流を図っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を優先している。必要に応じては、近隣の医院を紹介し利用を促している。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた書類を渡すなどの情報提供も行っています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護職員が居ない為、かかりつけ医の指示の基対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、様子を見に行った際に病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在見取りのケアは行っていない。利用者の状態変化の際は早急に家族との話し合いを持ち、主治医の意見も含め、今後の方針を検討している。	契約段階で管理者はホームの方針を伝えていきます。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を行っている。各応急手当のマニュアルも整備されている。	毎年1回は消防署職員よりAEDの使用や心肺蘇生の講習を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は築いていないが、夜間想定避難訓練を年2回行っている。災害時の備蓄品も準備されている。	定期的に夜間を想定した避難訓練を行なっています。しかし、避難訓練には地域の方の参加は無く、非常食の確保もされていませんでした。	非常食の準備や、地域の方にも避難訓練に参加して頂けるよう声掛けし、災害時に適切な対応をとれるように検討されることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝はしっかりとあいさつの声掛けをしている。一人一人のことを十分に理解した上で注意を払っている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についてもすべてのご利用者に確認を得ています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事の手伝いやレクリエーションへの参加にはご本人の意思を確認し、なるべく希望に添える様支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がご自分のペースで生活されていて、その為に必要な支援を常に心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洋服決め、洗顔、ひげ剃り等必要に応じ支援している。洋服購入時は一緒に出掛け、ご本人に選んで頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに利用者からの希望を取り入れたり、季節の食材を使い工夫している。毎日一緒に調理したり、盛り付け、片付けを行っている。	ご利用者の能力に応じて調理や後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でもきゅうりやなすなどの野菜をつくっており、ご利用者の楽しみとなっています。月に1度は外食の機会を持ち、ファミリーレストランや回転ずしなどにご利用者と出かけています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量チェックにより体調把握に努めている。食事中は必要に応じ、声掛け等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けをしている。介助の必要な方は対応している。夕食後は義歯の消毒を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が続いた際は、排泄パターンを確認し、時間を決めてのトイレ誘導を行い、トイレでの排泄支援に努めている。	ご利用者全員に排便チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い体調把握に努めている。便秘の方には水分補給や運動を働きかけたり、下剤服用の調整をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望により、2日に1回、毎日入浴に分けて支援している。拒否の多い利用者には、調子の良い時を見極め誘っている。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。ご家族と一緒に日帰り温泉に行かれて入浴を楽しむこともありました。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は適温を保ち、清潔な寝具、きつすぎないパジャマ、ご本人好みの照明にて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全、確実に服薬出来る様、個々の処方に基づき対応している。職員による2度のチェック体制をとっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽器の演奏、料理など得意分野を活かし、張り合いを持って頂いている。カラオケ、言葉遊び等楽しみながら気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ全利用者が、2～3日に1回のペースで買物や散歩などの外出を行っている。また月に1回、全員での外出を予定し、その季節に合った場所へ出掛けたり、外食などを楽しまれている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、散歩へ一緒に行ったりもしています。また季節に合わせたお花見や、はす見学、菊祭りなどのイベントとしての外出も実施しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の預り金は管理者が保管している。必要に応じて職員と一緒に買物に出掛けている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の利用はほとんどない。利用者宛に荷物が届いた場合、御礼の電話がかけられる様支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンが中心にあり、広々とした共有スペースになっている。フロアーには日めくりカレンダーを掲示したり、季節に応じ壁飾りを飾り替え、季節感を取り入れている。	居間と食堂、オープンキッチンがワンフロアとなっています。テレビを囲むようにソファがありカラオケを楽しんだり、テーブルでは料理の準備やタオルたたみも行われています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファ席を設け、気の合う利用者同士で座り過ごされている。テーブル席やカウンタも利用し、思い思いに動ける様工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団は以前から使用していた物を使用している利用者もおられる。家族の写真を飾られている方もいる。	居室には、ベッドやテレビ、机など、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー内の行動範囲にはすべて手摺を設けている。利用者の視線に合わせ危険箇所を探り、クッション素材で防護している。		